

2021年度 ドコモ市民活動団体助成事業 活動成果報告書

2022/9/30

団体名	特定非営利活動法人 Okinawa Hands-On NPO	活動タイトル	～レジリエントな志縁拡大！～結(ゆい)ぬすくぶんSDGsプロジェクト2021	
<p>望ましい社会状況および団体のビジョン（社会的役割と活動基盤）</p>			<p>■ 活動風景</p>	
<p>●地域の望ましい社会状況(ビジョン)</p>	<p>児童福祉法の精神である『子どもの最善の利益が優先』を念頭に、安心して『子育て、子育て』ができる持続可能な地域づくりが必要不可欠です。また、貧困のリスクに負いやすい家族が負のスパイラルから抜け出し、地域社会全体が子どもの貧困問題解決に向けて持続的に問題意識を持ち続ける自立できる支援体制の仕組みづくりが大切です。これまで以上に継続的に質の高い遊びと学びのプログラムを安定的に提供し、子どもの幸福感と自己肯定感を育み拡大できる地域づくりに邁進します。</p>			
<p>●団体の社会的役割(ミッション)</p>	<p>これまで沖縄県中部地域において、協働志縁の輪が繋がった自治会や公民館、学校、障がい者福祉団体等、様々な子育てに関わる社会資源と協働的な形で多種多様なネットワークを構築できました。今年度はSDGs（持続可能な開発目標）を軸にした『誰一人取り残さない』地域の実現を目指し、ESD（持続可能な開発のための教育）の取り組みを目指している学校や企業と連携したプログラムを導入し、コロナ禍においても子どもたちへ深い学びの場を提供し、心の不安を生きたる希望に変えていきたい。</p>		<p>SDGs～s！ レジリエンス！ フードドライブ 子ども商店 in 沖縄市 池原公民館</p>	
<p>●団体の活動基盤</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●人材の確保と育成：SDGsプログラムを推進する為に自治会、学校、福祉団体、企業等と連携し、我がごと丸ごとの思いでビジョンを共有化できる人材を育成する。 ●物的資源：NPO活動を十分理解したSDGs推進企業や、個人事業家からの寄付が十分構築している。 ●活動資金：補助金、助成金に大きく頼らず自主財源を確保でき、自主事業で地域課題を解決する高い効果を生み出す仕組みづくりを構築している。 ●ナレッジ：沖縄県のみならず日本全国において地域との絆を大切にすSDGs目標達成の基盤づくりに協力できる方々からの情報筋が構築されている。 		<p>フードドライブの取り組みを通して、食品ロスの課題を学び、持続可能な社会に向けて自分たちにできることを実行する中で、小さな成功体験を重ねながら子ども達と地域の方々との連携と信頼関係が築けました。</p>	
<p>■ 活動報告</p>			<p>■ 1年間の目標に対する達成状況(まとめ)</p>	
<p>既存コロナ禍の渦中、助成3年目は、事業運営連携図や緊急時安全対策マニュアル図をスタッフ間で共有化を進めながら、子どもの貧困を取り巻く環境に、物価高騰を見据えたフードドライブの仕掛けと仕組みづくりの組織基盤強化を公民館や貧困の防波堤となるべき学校と連携し、プログラムを推進してきました。子どもたちや親の自己肯定感やレジリエンス力（困難に打ち勝つ力）、非認知能力（やり遂げる力）を育む講座やワークショップを、SDGs（持続可能な開発目標）とESD（持続可能な開発のための教育）活動を手法に採り入れ、地域の自治会をはじめ地域医療専門家等と持続可能なパートナーシップを図り開催いたしました。</p> <p>また、学習支援や日々の文化継承活動においても、利用者家族からも、子どもたちの成長に未来思考に関心を高められたことがスタッフたちとの共有意識に繋がりました。このような機会を頂き感謝申し上げます。イッペーニフェーデービル（ありがとうございます）。</p>			<p>SDGsの理論を軸に、様々な専門家の皆さんの講座やウコム・シチビ（旧暦年中行事）を通して地域の有志の方々との課題解決の『循環』意識に繋がりました。日本は超高齢社会を迎え沖縄県でも例外ではなく、その兆しが各地域で過疎化や少子化が見られ、そこに様々な格差問題が拡大しています。未来の子どもたちには、そのような様々な格差社会を乗り越え、解決力を備えた育ちあるレジリエントな人材としての育成が不可欠であります。今回の学びの機会は、参加する子どもたちを通して、地域の大人たちが貧困格差等の諸問題解決に向けて、持続的に問題解決意識を持ち続けることがいかに大切かの気づきの誘発拡大に繋がり、より一層、経済的にも福祉的にも弱い立場になった方々への支援継続と自立促進が大切であると認識されてきました。一人ひとりの自律意識が地域を変える住み続けられやすいまちづくり、人づくりの生態系が、この取り組みから「支援の枠組みをつくる考え方」に共鳴する自治会や学校関係者たちのモデル波及へと繋がることができました。</p>	
<p>■ 事業を通じて得られたノウハウ</p>			<p>■ 望ましい社会状況を達成するための課題</p>	
<ul style="list-style-type: none"> ●多様なIT機能や携帯機能アプリ等を用いて、各学年に沿ったデジタルコンテンツ素材等、SDGsを基軸にすることで、より学校教材の中身を深めるプログラムとしてのストックになりました。また、講師やファシリテーター、そして利用者共有コンテンツとして、理解度の見える化に繋がりが、そこから子どもたち自身の学びスタイルの習得、さらに勉強のみならず社会や地域課題解決の理解に繋げ、各々の選択で拡大普及できることがノウハウとして蓄積できました。 ●放課後の学びと活動が子どもたちの履歴書になり、また生活再生の希望の場に繋がりが、地域に住む他者と学びを起点として一緒に活動することで志縁に変わりました。また、勉強を越えた地域の学びと人としての関係性が、子どもたちの生き方に反映され、持続可能な独創性のある人材としての礎になる育つから育ちへの仕組みが明確になりました。 ●コロナ禍において、プログラムの共有・推進・見直しの状況判断が迅速になりました。 			<p>今後も「誰一人取り残さない地域づくり」をめざし、以下について取り組みます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●無私の姿勢で貧困格差問題に若者たちと取り組む中高年・壮年層の拡大と、時代の切り替わりに新しい視点を持った人材リソースの生態系が拡大できる理念（ミッション型）コミュニティの形成。 ●様々な地域資源と人材の関係性を増やし、生きやすさ、学びやすさを演出できる人材センターの継続的な育成と、無限のエネルギーで地域教育と人材育成に身を捧げる人材コーチングの土台づくり。 ●縦割りの関係的な地域コミュニティではなく、強度あるココやナナメの関係構築で誰もが『個』で認識し合う関係づくりの継続的なモデル地域づくり。 ●地域と再接続でき地域課題に触れることができる、親と友達と以外の第三の人間関係を促す第三空間づくり 	
<p>この1年間の活動を通じて</p>			<p>SDGsとESDについての地域への波及拡大と、「援助」と「自立」が融合した子どものウェルビーイング（身体的・精神的・社会的に良好な状態）を持続可能にする地域創成モデルづくり</p>	
<p>■ 受益者の具体的な変化（自由記入）</p>			<p>を達成しました。</p>	
<p>・地域には沢山の資源や知恵を持った様々な人がいて繋がりに気づくことができました。（小学生）</p> <p>・「いのちの授業」に参加して、悩みを相談できる家族以外の人達が増えた。（地域住民）</p> <p>・プログラムに参加した後も、子どもがお家でSDGsについて話をするなど、子どもの学びの視野が広が嬉しく感じる。（保護者）</p>				